

平成30年度 第3回温海地域振興懇談会 会議概要

○日 時 平成30年10月25日(木) 午後1時30分～午後3時45分

○会 場 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室

○次 第 1. 開 会
2. あいさつ
3. 報 告
計画策定経過と今後の予定について 資料No.1
4. 協 議
(1) 温海地域振興計画(案)について 資料No.2
(2) 温海地域まちづくり未来事業計画(案)について 資料No.3
(3) その他
5. 閉 会

○公開・非公開の別 公開

○傍聴人の人数 2名

【温海地域振興計画(案) 及び温海地域まちづくり未来事業計画(案)について】

A委員

- ・計画素案の2ページの下段に日沿道が10年以内に全線開通するとあるが、これは新潟朝日と今の高速道路が10年以内につながるということか。

市

- ・一般的に工事着工から概ね10年以内といわれておりそれを引用している。10年以内の開通を目標にしながら地域としては準備をしていく必要がある。

B委員

- ・あつみ温泉街の旅館や商店の廃業が散在する中、「魅力ある店舗づくり事業」のような取り組みは急がなければならない状況と思う。
- ・温泉街の観光素材を保つため、廃業した旅館等を地元観光関係者で購入或いは有効活用できないものかと考えている。

市

- ・現状は「負のスパイラル」に入っている状態で、そこをどのように断ち切っていくかということ。
- ・行政の支援メニューも、あつみ温泉の魅力向上・振興につながるように有効で効果的なものにしたい。

B委員

- ・資金的に簡単なことではないが、個人的な意見としては、湯役所跡地として日帰り入浴施設等を構想している。

C委員

- ・関連になるが、建築基準法等の関係で木造 3 階の建物は有効活用が困難である。活用に当たり特例を設けるなどできないものか。
- ・バラ園の整備について、具体的にはどういう形を検討中か。

市

- ・本年度は測量設計と基本計画で、今後ワークショップを計画している。地元の意向を参考にしながら基本計画づくりを進める。

D委員

- ・人を育てるということが、これから一番大切なのではないか。新たなチャレンジや若者の活動を支援する観点も含め、「人材育成」にもう少し力点を置くべきと考える。

市

- ・人づくりに関しての項目としては温海地域まちづくり未来事業（案）No.9「新『道の駅』関連人材育成事業」にもあるが、全市的な視点でもあり、新総合計画に盛り込まれるべき項目である。
- ・様々な団体等と連携して事業を進める過程で、側面支援も含め、人材育成を意識していきたい。

E委員

- ・例えば 4 ページのNo.28「語らい広場」とNo.25「温海地域公共交通網形成事業」など、複数の事業をセットで考えていけば、より効果を発揮すると思う。
- ・体験旅行の関連で、民泊の場として空家を活用できないか。空き家対策を「撤去」と「有効活用」両面で計画できないか検討願う。

- ・地域おこし協力隊は異なった視点で地域を俯瞰できるため、制度をうまく活用し地域振興を図るべき。

市

- ・様々な事業連携や地域における最適な形を構築していきたい。
- ・空き家対策については、市全体の取り組みの中で検討していきたい。
- ・地域おこし協力隊については、ミッションを明確にしたうえで積極的な制度活用を目指したい。

D委員

- ・個人的に宅地・建物取引主任の資格を有することを含め、自然体験あつみコーディネットでも農家民泊を進めていきたい。
- ・No.21 産直組織活動基盤強化事業について、鼠ヶ関 I C 周辺道路休憩施設での活用を是非進めてほしい。

F委員

- ・日沿道延伸を見据え、案内看板等の充実を図るべきと考える。

市

- ・市全体の取り組みの中で温海地域内の整備を考えていきたい。
- ・今年度歴まち計画の重点区域においては、国庫補助を活用しながらサイン計画策定を進めている。温海地域についても系統立てた案内ができるような形でのサイン計画というものが必要と考えている。

G委員

- ・温海地域の横軸の道路改良を進めないと、若い人が地域を離れることが懸念される。計画の中に文言が欲しいところである。

A委員

- ・関連して、日沿道延伸の際の「人の流れの変化」を想定し、関川平沢間、一本木峠は早期の手立てが必要と思う。

市

- ・国県道整備については、地域振興計画には直接的には出て来ないが、重要事業と位置付け毎年要望しており、引き続き要望を継続する。

H委員

- ・No.24 の廃校活用に関連し、旧温海高校を盛り込むことはできないか。なんとか旧温海高校を活用して欲しい。

市

- ・旧温海高校は中心地にあり温泉が近く好位置にあるが県立である。ただ、地域振興において旧温海高校を除外しているわけではないことをご理解願いたい。
- ・一つの成功モデルを作り、それを県と共有しながら進めていきたい。

H委員

- ・全国的な成功事例を踏まえ、温海地域に適したやり方をお願いしたい。

A委員

- ・「食」に関する取り組みは効果発現が速いと思うので、今以上に力を入れていただきたい。
- ・温海地域の豊富な間伐材から生成されるチップを活用し、新たな価値の開発を検討するべきと思う。

市

- ・「食」における在来作物関連については、市全体において、認知度などにより区分、整理したうえでそれぞれ手立てをしていくこととしている。

I委員

- ・庄内唯一のバラ園の整備に関連し、幅広い世代に楽しんでいただくコンセプトに加え、カップルもターゲットに考えてはどうか。温海地域は「婚活の場」「デートスポット」という印象付けも有効と考える。
- ・温泉街景観づくり事業の関連で、撤去した桜を使ったベンチ配置など、温泉街への再利用を検討してどうか。
- ・公共交通網再編に取り組む際、地域住民の意見を参考にすることに加え、観光客のニーズも取り込んでいただければありがたい。

市

- ・バラ園の整備については、若手を中心としたワークショップを行う予定であり若者の意見を参考にしたい。
- ・二次交通の重要性については市全体でも十分認識しており、あつみ温泉の二

次交通も全体と足並みを揃えて進めていきたい。

- ・公共交通網のニーズの調査ということで、観光客や観光関係者も含めた把握に努めたい。

J 委員

- ・ICT活用に関連し、地域の有線放送で放送しづらいデリケートな内容を防災行政無線で対応するなど柔軟な運用をお願いしたい。
- ・観光振興の面で、温海地域の四季折々の美しい自然を活かし、写真コンテスト等を実施してはどうか。入選作品を絵葉書にするなど展開が広がる。

市

- ・瀬波あつみ温泉笹川流れ観光開発協議会で写真コンテストを実施した。今後の展開を協議会で検討したい。

K 委員

- ・シルクを活かした新製品の開発等により商工観光面において展開が広がる可能性があり、温海地域において他にはない特徴的な事業を、廃校や空家の活用も含めて形成できるのではないかと考えている。
- ・廃校のグラウンドについて、育苗など農業の側面で有効活用できると思うが見解はいかがか。

市

- ・グラウンドは地域開放していることから、地域住民と調整できれば活用可能と考える。提案があれば教育委員会と調整する。
- ・旧温海高校のグラウンドについては、現在アンテナが立っている関係で面積的な制約が生じている。ピロティも活用方策があると思うが、県施設の一部借用は困難であり、まずは、市の財産から有効活用を図っていきたい。
- ・シルク関連については、全市的な施策として推進していく。

L 委員

- ・元気な高齢者や障がい者が、様々な施策のお手伝いをできるような配慮をお願いしたい。
- ・温泉街フラワー整備事業に関連し、プランター等の手入れと婚活事業をセットで実施するのも一つの手法かと思う。

M 委員

- ・バラ園の整備に関連し、バラ園周辺にもみじ等を植栽し、バラが終わったら紅葉といった誘客対策も一つの手法と考える。
- ・廃校を活用した農業振興は引き続き検討すべきと考える。いろんな作物栽培の可能性が広がると思う。
- ・事業実施にあたり市の財政負担だけでは限界があり、国県補助金の有効活用を図るべき。財源を考えながら一つ一つ形にしていけば、地域住民の意識も変わってくるものと期待する。

市

- ・廃校利用については今後様々なアイデアを探っていきたい。
- ・国の支援メニューは「やる気のある方には応援する」とほとんどが手揚げ方式となっており、温海庁舎としても国の支援メニュー等を皆さんにご紹介できるように情報収集に努めたい。

C委員

- ・魅力ある店舗づくり事業について、仕組みは決まっているのか。また、具体的案件はあるのか。

市

- ・来年度に関係者とともに使いやすい仕組み等検討したい。

【その他】

C委員

- ・9月11日に「温海地域喋くりナイト」という事業に参加したが、次回以降は年代ごとに場を設定した方が効果的と感じた。

市

- ・今回は、地域づくり団体を中心にメンバーを選出した。次回以降は、中高生も含め開催手法を検討したい。

G委員

- ・温海地域の市営住宅に、金山町出身の学卒者が入居できるか確認したい。

市

- ・以前も同様な相談があったが、公営住宅法の制約があり、民間アパート等を案内した経過がある。

- 市営住宅は、全市的にもかなり空いている状況である。公営住宅法としての制約はあるが、移住に向けての「お試し住宅」など国土交通省に手続きをして公営住宅法の網を外した使い方は可能である。
- ただし、網を外すのに時間を要するため、老朽化対策とセットで考えていく必要がある。
- 移住者が住む場所という点では、空家対策とともに考えていかなければならない。

以上